

進路通信

廿日市中学校
第8号
08月18日(火)
発行責任者 吉本邦治

ノートの取り方のコツ

新学期が始まった今は、自分を変えるチャンスでもあるのです。ノートの取り方を変えるだけでも、自分自身を「受験モード」に変えることができます。

ポイント1 授業内容を思い出すために「メモ」を活用

多くの人が陥りがちなのが、先生が黒板に書いた内容を書き写して満足してしまうこと。たとえ美しいノートができたとしても、これでは復習するときに授業の内容を思い出しにくい。授業中にノートを取るときは、板書だけでなく先生が話す解説を積極的にメモしよう。授業中の話には、理解するうえで大切なポイントや、教科書から一步踏み込んだ内容が含まれていることが多い。その中からテストの問題が出題されることもある。先生の話をもとにノートにメモするために、あらかじめノートに線を引いてそのためのスペースを確保しておこう。例えば数学なら、ノートを3分割し、板書を写すところ、授業のメモを書くところ、計算をするところのように使い分けるとよい。

ポイント2 「わかりやすさ」を重視して色数を抑える

授業中のメモでも、重要な箇所の色ペンや蛍光ペンを使うのは基本中の基本。ただし、色ペンや蛍光ペンはそれぞれ3色以内に抑えた方がよいだろう。たくさんの色を使えば使うほど、どれが重要なかわからなくなってしまう。素早く書けるのも、色数を抑えるメリットだ。使う色は「赤は暗記すべきもの」「青は先生の解説」「緑は気づいたことや自分へのアドバイス」といったように、それぞれの役割を決めておこう。役割は各科目共通にしておくと、混乱せずすむ。自分で決めた記号やアイコンを活用するのもオススメ。わからなかった箇所には「？」マーク、テストに出すと先生が話した箇所には「！」マークなど、自分なりのルールを設定しよう。重要度によってマークの大きさを変えるのも一つのアプローチだ。

ポイント3 自分の訳や解答は絶対に消さない

授業の過程で間違った箇所を正しく理解し、同じ間違いを繰り返さないようにしておけば、定期テストや入試本番でのミスも減るはずだ。どこをどのように間違えたのかをわかりやすくするために、授業中に自分が書いた解答は、たとえ間違っているとしても消さずに残しておこう。授業では先生の解説を聞いて、どう間違っていたのか色ペンを使って書き込んでおくこと。教科書や問題集の該当する部分に、同じ色のマークを引いておくと効率よく復習できる。時間に余裕があれば、間違った箇所だけを集めた復習用のノート（弱点ノート）をつくっておくのもよいだろう。

ノートは、他の誰かに見せるためではなく、将来の自分が読むために書いているのです。自分に合った、オリジナルのステキなノートをつくってください。